

平成24年度 観光振興施策の実施状況

観光国際局観光政策課

1 将来の観光を担う人材の育成

(1) 観光に対する理解と関心の醸成

○小中高等学校での学習の推進

- ・幼稚園児から小学生までを対象に、郷土徳島を理解し、楽しみながら徳島の魅力を学習するために配布した「阿波とくしま観光かるた」を使って「第3回阿波とくしま観光かるた大会」を開催した。

◆第3回阿波とくしま観光かるた大会：平成25年1月13日開催

参加者178名（個人戦82名 団体戦96名）

入場者600名

○郷土を再発見できる講座の開催

- ・「阿波藍」について、親子で触れ・学び体験する1日体験講座を徳島の「きもの伝統文化活性化実行委員会」と共に開催し、郷土の伝統文化の再発見と藍の魅力を紹介した。

○観光振興に関する情報の周知

- ・平成25年3月16日から18日にかけて開催された「第9回ほんもの体験フォーラム in 徳島」にて本県の体験型観光の取組みについて講演を行った。

（過去最多の1,777人が参加）

(2) 「おもてなしの心」を生かした観光客の受け入れ

○主要観光地等でのガイドによる対応

- ・各観光ボランティア団体の交流促進や情報交換を行うため、「なると観光ボランティアガイド会」の協力を得て現地研修会を実施するとともに、新たに設立された団体等に対し、参加を促した。

◆開催日：平成25年2月15日

◆場 所：鳴門公園

◆参加者：75名

○観光講座の充実

- ・タクシー事業者、タクシー乗務員接客担当者を対象に、ドライバーの接客態度、おもてなしの精神の向上はもとより、観光に関する幅広い知識等の習得は、観光客の満足度を高め、魅力的な観光地としてイメージアップが期待されることから、タクシーサービス活性化に向けた研修を行った。

◆開催日：平成24年10月5日

◆参加者：30名

(3) 観光の振興に寄与する人材の育成

○リーダーの育成

- ・ 四国観光達人、観光事業従事者、市町村観光担当者等を対象に、徳島県の観光資源を「着地型観光商品」として県内外に発信し、徳島県の観光を活性化する人材を育成するため、「着地型観光商品造成の人材養成研修」を開催した。
◆開催期間：平成24年11月～平成25年3月、全3回開催

○観光従事者向け研修の実施

- ・ 平成25年3月16日～18日にかけて開催された「第9回ほんもの体験フォーラム in 徳島」に多くの担当者の出席を促しスキルアップを図った。
(過去最多の1,777人が参加)

○外国人観光客に対応できる人材の育成

- ・ 県内在住外国人等を対象とした観光モニターツアーと併せ、観光ボランティアに対する実務研修を実施した。
◆開催日：平成25年1月20日 参加ボランティア5名

○観光分野でのICT活用人材の育成

- ・ 「阿波ナビ」への記事の投稿や編集方法などをまとめたマニュアルを市町村に配付し、ホームページの活用による情報発信力の向上に努めた。

【個別目標の進捗状況】

- 平成25年3月16日～18日にかけて「第9回ほんもの体験フォーラム in 徳島」が、中国四国地方で初めて開催されるなど、体験型観光指導者のレベルの向上及び育成が着実に進んでいる。
- ボランティアガイドを育成する講座の開催やネットワークの構築を図るなど、ボランティアガイド団体の活動が県内各地において順調に行われている。

2 「阿波とくしま」の魅力あふれる観光地づくり

(1) 住んでよし、訪れてよしの観光地づくり

○観光客との交流が生まれる観光地づくり

- ・ 三好市東祖谷落合集落において、地域コミュニティの維持再生と定住促進を図るため、古民家3軒を体験型宿泊施設に改修するための設計業務を行った。

○地域が一体となって取り組む観光地づくり

- ・にし阿波観光圏の過去5年間の集大成として、また次期認定に向け地域の気運醸成を図るため、プレイベントとして、「にし阿波体感プログラムイベント」を実施した。

○人にやさしい観光地づくり

- ・観光地の魅力を向上させるため、観光客が安心して訪問できるような案内標識や外国人にもわかりやすい多言語表記による案内標識の整備を行った。

(2) 観光資源の育成

○四国八十八箇所巡りと県内各地での観光の組み合わせ

- ・第18番札所「恩山寺」の詳細調査（古文書等）を行った。また、「阿波遍路道・札所寺院保存検討委員会」を設置し、第21番札所「太龍寺」の国史跡指定に向け、調査報告書の取りまとめを行う。

○伝統芸能の振興、活用

- ・「徳島市阿波おどり」の際に、無料棧敷やにわか連、総合案内所の運営、交通円滑化の事業に助成するとともに、県外客への県庁外来駐車場の開放や駐車場情報の提供を行った。
- ・平成19年に本県で開催した国民文化祭の4大モチーフとして位置づけた「阿波おどり」、「阿波人形浄瑠璃」、「阿波藍」、「ベートーヴェンの第九」などの個性豊かな文化資源に磨きをかけ、その集大成として、2回目の国民文化祭において魅力発信した。

○伝統工芸の振興、活用

- ・東京の百貨店での工芸品展に阿波正藍しじら織と大谷焼が出展し、伝統的工芸品産業の振興を図った。
- ・阿波おどり会館「あるでよ徳島」で藍染め、しじら織シャツの販売を実施し、地場産業の振興を図った。

○宿泊施設、飲食店等における地元食材の活用

- ・地産地消型料理の情報発信として、県内の様々な郷土料理や、阿波の献上料理、阿波薬膳料理やお美姫鍋、また徳島ラーメンを代表とするB級グルメの紹介を、観光情報サイト「阿波ナビ」やとくしまINAKA博覧会のパンフレットなどで情報発信した。

○観光資源の掘り起こし

- ・大歩危地区の妖怪伝承のポイントを巡る「妖怪の里歩き」ガイドツアーに関して、景観整備、追加プログラム等のブラッシュアップを図った。
- ・LEDを効果的に取り入れた光の名所と呼べる場所やモニュメント、施設・街並み等を四国霊場になぞらえ、「光の八十八ヶ所」として認定し、広く情報発信した。
- ・日和佐漁業者会において、千羽海崖等を遊覧する「うみがめマリンクルーズ」を運行し、観光誘客を図った。

(3) 郷土料理や物産など総合的な魅力向上

○農林水産物のブランド化

- ・「新鮮 なっ！とくしま」号の展開等により、「とくしまブランド」の露出度を高めるとともに、「とくしまブランド協力店」の登録拡大を進め、PR体制の強化や消費者が県産品に接する機会の増加、認知度の向上に努めた。

○農林水産物直売所の活用

- ・地産地消協力店の登録を推進し、県産品の活用及びPRの拡大を図った。直売所のステップアップのための研修会を開催した。

○消費者等へのアピールの場の提供

- ・「阿波とくしまアンテナショップ」認定制度の新たな認定店を募集するとともに、既認定店のPR支援を行った。

(4) 地域の観光の振興に関する総合力の向上

○観光地の連携による周遊型観光の推進

- ・「にし阿波観光圏」や「AMA地域連携推進協議会」等の事業活動をサポートし、成果を高めるため、同エリアへの公共交通機関を使った旅行商品やモデルコース等の情報発信に努めた。
- ・大歩危祖谷地区等で、円滑に二次交通を活用してもらうため、交通機関情報、乗換等の情報のみに特化した携帯版ガイドブックを作成した。

○観光に関する情報の共有化

- ・官民一体となって観光振興に取り組むための組織として、「もてなしの阿波とくしま推進会議」を設置・開催し、情報交換を行った。

◆開催日：平成24年5月9日

(5) 自然環境及び良好な景観の保全

○自然体験活動等を通じた環境学習の推進

- ・環境学習を通して小中学生の問題解決力を育むため、地域と学校等が連携し、コミュニティーを通じた環境学習が実践できるよう、アドバイザーの派遣や学習教材の提供などの支援を行った。また、環境学習の取り組みが広がるよう、環境活動成果の発表会や情報交換ができるフォーラムを開催した。

○環境と景観の美化

- ・環境と景観の美化に向けて、様々な清掃活動を推進した。
 - ◆「アドプト・プログラム吉野川」 参加者：15,338人
 - ◆「観光の日における美化推進」 参加団体：12団体
- ・鳴門公園の正面に位置する第一駐車場公衆トイレを改修することにより、「四国・徳島の玄関口」にふさわしい景観を再生し、県全体の観光振興への波及効果とイメージアップを図った。

(6) 観光客の利便性の向上

○着地型観光での利便性の向上

- ・「歴史や伝説に彩られた日本の原風景」が豊富に存在する「にし阿波観光圏」の眺めのすばらしい地点として発掘・集約した「にし阿波お勧めビューポイント」を周遊コースの設定や、パネル展の実施、パンフレットの配布等により広くPRした。

○クレジットカード等の利用による利便性の向上

- ・銀聯カード使用可能店舗の情報収集及び県観光情報サイト「阿波ナビ」等を利用した情報提供を行った。

○交通アクセスの向上

- ・徳島阿波おどり空港発着路線の維持・拡充を図る利用促進事業を実施した。

○二次交通の整備

- ・バス事業者が運行する広域的・幹線的バス路線の運行を支援することで、観光客にとっても広域の移動手段および利便性が確保された。

○駐車場の確保

- ・鳴門公園への観光客が集中するゴールデンウィークやお盆期間中において、無料駐車場の設置や無料シャトルバスの運行など、地元の市、関係事業者、指定管理者と連携し、渋滞の緩和対策を行った。

(7) 安全及び安心の確保

○事故、災害発生時の迅速かつ的確な情報提供

- ・防災・危機管理情報「安心とくしま」ホームページにおいて、大雨に関する情報をはじめとした様々な危機事象について、迅速かつ正確な情報の周知に努めた。

【個別目標の進捗状況】

- ・地産地消協力店については、飲食店や量販店のほか、農作物直売所の登録がすすみ、順調に増加している。
- ・「新鮮 なっ！とくしま」号の展開による「徳島ならではの」のPRや「とくしまブランド協力店」・「美味しいよ！とくしまブランド店」の登録により、大都市圏におけるPR体制及びブランド力の強化に取り組んでいる。

3 新たな観光旅行の開拓と滞在型観光の推進

(1) 新たな観光旅行の開拓

○グリーン・ツーリズム、ブルー・ツーリズムの推進

- ・「南阿波よくばり体験推進協議会」や「そらの郷」の取組を支援するとともに、様々な媒体を活用し、体験型観光についての情報を積極的に発信した。

○メディカル・ツーリズムの推進

- ・県上海事務所等を通じ、中国国内に向けた情報発信に努め、医療観光の誘客を促進した。

○産業観光の推進

- ・平成24年秋に開催した「とくしま祭り」において、「酒蔵」や「醤油製造所」を対象としたスタンプラリーを実施し、新たな産業観光資源の整備と情報発信を図った。

○食を活用した観光の推進

- ・「徳島の活鱧 味わいキャンペーン」を継続して実施した。また、「日本三大はも祭り」でのPR強化、首都圏等における需要の新規開拓を行うとともに、はもをはじめとした徳島の美味しい魚を味わえる店舗情報を発信した。

○参加・体験型教育旅行の誘致

- ・平成25年3月16日から18日の3日間にかけて「第9回ほんもの体験フォーラム in 徳島」を開催し、全体フォーラム、課題別分科会、体験ツアーを通じて、知識や技能習得のレベルアップを図った。
(過去最多の1,777人が参加)

(2) 観光客の滞在促進

○観光資源の特色を生かした観光プランづくり

- ・第一番札所霊山寺から第五番札所地藏寺までの全行程約15kmのお試し歩き遍路を実施した。
- ・四国一の清流「穴吹川」を活かした体験プログラムの開発、にし阿波サイクリングコースのパンフレットを作成し、交通事業者等とタイアップしたPRを実施した。

○徳島ならではの食材、県産品を生かした観光メニューづくり

- ・「とくしまブランド特使」「なっ！とくしまソムリエ」による県産食材の積極的な利用や料理レシピ提案等により「ブランド品目」の魅力をPRするとともに、「新鮮な！とくしま大使」に収穫体験プログラムを経験していただき、ブランド品目への理解を深めた。

【個別目標の進捗状況】

- ・とくしま農林漁家民宿の開業支援と育成のための組織作りの推進や、人材育成を図り、積極的にPRした結果、体験宿泊者数は順調に増加している。
- ・本県の持つ豊かな自然や食材等を利用し、教育旅行の誘致・受入れに積極的に取り組み、体験型教育旅行における協議会受入泊数は順調に増加している。

4 情報発信の強化による「観光とくしまブランド」の確立

(1) 徳島県の魅力に関する情報発信

○インターネット、携帯サイトの活用

- ・「にぎわいとくしま観光協議会」の徳島ファンクラブのメールマガジンにおいて、月1回季節に合わせた観光スポットやイベントなど、徳島の魅力ある観光・物産情報を提供した。
- ・「新鮮なっ！とくしま通信」により「とくしまブランド」の魅力発信や県産食材の販売店舗や美味いよ！とくしまブランド」店等の飲食店情報を掲載し、県産食材の販路拡大や誘客促進に努めた。

○情報発信拠点の充実

- ・従来のPC版「阿波ナビ」のコンテンツを一新、再構築を行い、さらに、スマートフォン専用サイトを作成することにより、利用者の利便性を向上させ、観光誘客の促進を図った。

○県民一人一人の情報発信力の向上

- ・「宝の島・徳島」を素材にしたデジタルコンテンツを顕彰することにより、地域情報を発信するとともに、クリエイターの発掘・育成を行った。

○口コミの活用

- ・観光情報サイト「阿波ナビ」の誰もがクチコミ情報を提供できるサブサイト「もっと！！阿波ナビ」で旬の魅力ある情報の収集・発信を図った。

○大都市圏でのアンテナショップの活用

- ・全国に向けた、徳島物産・観光の情報発信や県産品の販路拡大を実現するため、県外物産センターの運営や、民間活力の活用を推進による「阿波とくしまアンテナショップ」認定支援、コンビニ協働事業を活用したアンテナショップ2号店を出店した。

○観光・物産展の開催

- ・首都圏や関西、九州等の各百貨店において四国観光物産展等を開催し、本県特産品の販路拡大と誘客促進を図った。
- ・南部圏域への観光客の増大や地元食材の利活用を推進するため、南部圏域が一体となったイベント開催やPR活動等を実施した。

○総合的な情報発信活動の強化

- ・近畿圏等との交流拡大を図るため、近畿圏等の府県と広報紙等のスペースを交換し、「第27回国民文化祭・とくしま2012」や「本県の魅力発信」を行った。
 - ◆広報紙：兵庫県、和歌山県、鳥取県

(2) 様々なマスメディアによる魅力の発信

○ロケーションブランドの確立

- ・「徳島県ロケーション・サービス」を中心に、阿南市で撮影が行われた映画「モンゴル野球青春記」のロケ支援など、各種テレビ、映画のロケを支援した。

【個別目標の進捗状況】

- ・観光情報サイト「阿波ナビ」においては、内容の充実を図ることにより、アクセス数が向上した。
- ・「新鮮 なっ！とくしま」号の運行回数は順調に増加しており、「徳島ならではの」のPRを展開し、新鮮で、安全・安心な「とくしまブランド」の浸透を図った。

5 国際観光の推進

（1）外国人観光客の来訪促進

○伝統文化等を活用した海外における観光宣伝活動

- ・阿波おどり、お遍路等の伝統文化や本県の食材・食文化を徳島ならではの観光資源としてPRするとともに、四国や関西各府県の有する観光資源を組み合わせた広域観光としての情報発信も行い外国人観光誘客を促進した。

○ターゲットを絞った誘客活動

- ・東アジア、東南アジアを重点エリアとし、各国・地域の訪日需用に応じた誘客活動を実施した。

○海外からの誘客活動の推進

- ・団体旅行及び個人旅行客の誘致を図るため、遍路ツアーや、教育旅行、医療観光、アニメなど徳島の強みをアピールするとともにファムツアーの積極的な受入、海外でのプロモーションを展開した。

○外国語パンフレットによる情報発信

- ・観光パンフレットを自治体国際化協会及びJNTOの海外事務所に設置するとともに、海外で開催される旅行博覧会や様々なイベントにおいても配布し、積極的な情報発信によるPRを行った。

○インターネットを活用した外国人向け情報発信

- ・徳島県観光情報サイト「阿波ナビ」の外国版（英語・中国語（簡体字・繁体字）・韓国語）に加え、メルマガの発行、フェイスブックの開設により、積極的な情報発信を行った。

（2）外国人観光客の受入体制の整備

○外国語表記の推進

- ・市町村や国際観光関係者と連携して、観光案内板等の多言語表記を促進した。

○外国人観光客への案内サービスの向上

- ・外国人観光客に対する観光情報の提供、各観光案内所からの問い合わせへの回答及び観光情報やパンフレット等の収集を行った。

○国際チャーター便の活用

- ・平成24年12月に香港からのチャーター便（3往復）を誘致した。

（3）海外との相互交流

○海外とのネットワークづくりによる相互交流の活性化

- ・ニーダーザクセン州との友好交流提携5周年を記念した公式訪問団を派遣し、両県州の新エネルギーに関する取り組みを紹介する「日独セミナー」をはじめ、幅広い交流行事を実施した。

【個別目標の進捗状況】

- ・「にぎわいとくしま観光協議会」において、ベトナムで開催された「ジャパンスマイル・フェア」における阿波おどり公演への助成を行った。
- ・東アジア、東南アジア等の旅行会社及びメディアによるファムツアーは順調に増加しており、視察や商談会などを実施して旅行商品の造成や観光誘客を推進した。

6 広域観光の推進

（1）広域的な観光地の形成

○観光地の連携による滞在型観光の推進

- ・あしずり温泉郷の「海の秘境」と大歩危祖谷温泉郷の「山の秘境」のフェイスブック上での対決、ネット上での販売促進キャンペーンの実施及び商品企画書の作成により、販売促進、販路開拓を図った。

（2）四国4県及び関西圏の連携

○近隣府県と一体となった観光への取組

- ・四国ツーリズム創造機構の活動を通じて、官民一体となって国内外に向けた観光プロモーションを実施した。
 - ◆JR、旅行会社等と連携し、旅行商品「き・ら・り四国」や「はじめてのお遍路さん」等を造成
 - ◆「JAL麗らか四国キャンペーン」で旅行会社が実施する往復JAL便利用の四国旅行商品に対するバス代を補助「JR観光開発プロジェクト」でJR、旅行会社等と連携し、新たな観光素材の開発及び旅行商品を造成

- ・「にぎわいとくしま観光協議会」において兵庫県と連携し、クーポン券付きの「淡路島&徳島とくともく周遊ガイド」の制作・配布や、貸切バスにより両県の施設を巡る団体旅行に支援する「とくしまツーリズムバス事業」を実施した。

【個別目標の進捗状況】

- ・四国ツーリズム創造機構において新たな観光モデルプランを策定し、四国の広域観光モデルルートは順調に増加している。
- ・兵庫県と連携したバス団体旅行への支援については、国内外の団体に多く利用されており、広域観光の推進に結びついている。

7 「阿波とくしま」らしいにぎわいの創出

(1) イベントの開催などによる集客

○既存イベント等の改善や組み合わせによる集客力の向上

- ・「春の阿波おどり」として親しまれている「はな・はる・フェスタ2012」を支援し、「とくしまマラソン」や「徳島LEDアートフェスティバルHOP」との相乗効果による集客力の向上を図った。

○新たなイベント等の創出

- ・徳島市中心市街地においてアニメを核としたイベント「マチ☆アソビ」春・秋の2回を開催した。また冬のアニメイベント「ぷち☆アソビ」を開催し、四季を通じたにぎわいの創出を図った。

◆マチ★アソビvol. 8	平成24年5月3日～5日	参加者：40,000人
◆マチ★アソビvol. 9	平成24年9月22日～10月8日	参加者：52,000人
◆ぷち★アソビ	平成25年2月23日～3月20日	参加者：14,000人

(2) コンベンション誘致

○コンベンション実施主体への助成

- ・大規模な大会等に対し、その開催経費について助成を行い、観光とコンベンションの総合的な振興を図った。
- ・観光庁やJNTO（日本政府観光局）、JCCB（日本コンGRESS・コンベンションビューロー）等のノウハウや諸情報を活用するとともに、県や市町村、大学等にお機関と連携して、開催計画等の情報収集と意向調査に努め、県内各施設、旅行代理店、交通機関等に、その情報提供を実施した。

(3) スポーツによるにぎわいづくり

○交流人口の増加

- ・平成24年4月22日に第5回記念大会「とくしまマラソン2012」を開催した。
- ・自転車利用促進協議会を設置し、その協議会において、既存サイクルイベントの検証や魅力あるサイクルイベントの開発を行うことにより、自転車王国とくしまのブランド化を行った。

○プロスポーツチームの集客力や情報発信力を活用してのにぎわい創出

- ・優秀選手の表彰、小中学生グループ招待を実施。また、「徳島ヴォルティスホームタウン協議会」によるホームゲームを活用した連携事業を実施した。

【個別目標の進捗状況】

- ・積極的なコンベンション誘致活動、開催助成金の支給等により、コンベンション参加者数は増加している。
- ・平成24年4月22日に第5回記念大会「とくしまマラソン2012」を開催し、ボランティアや地元の方々の協力のもと、「徳島ならではの」の応援や「おもてなし」などで本県の魅力をアピールし、にぎわいの創出を図った。